

あいめーる

SPRING

空飛ぶ車いす特集 愛隣館通信

平成 25 年 4 月 15 日発行
発行
社会福祉法人 愛隣園
障害者支援施設 愛隣館
発行責任者 三浦貴子
編集 広報チーム
キャリアピジョン

〒861-0551
熊本県山鹿市津留 2022
TEL 0968-43-2771
FAX 0968-43-2793
http://aileans.com
E-mail
ailinkan@magma.jp



(写真上・山鹿市八千代座於)

目次

国連 障害者の権利に関する条約	1
権利条約とベトナム	2
福祉サービス第三者評価制度	2
マグロの解体ショー	2
バレンタイン家族報告会	3
ヒューマンライツ委員会	3
外部講師を迎えて⑤	3
愛隣館スキー体験ツアー	3
空飛ぶ車いす(ベトナム特集)	4・5
新しい仲間	6
クローズアップ愛隣館⑤	6
家族の声⑥	6
地域情報交換会	6
ネイルアート	7
物づくりの風景	7
JA熊本主催植木まつり	7
ほっとフォト①	8
女性防火防災クラブ救急救命法講習会	8

三月十三日(水)国指定重要文化財 八千代座(合理的配慮によるバリアフリー化)にて、平成二十四年度・山鹿市地域支え合い体制づくり研修会「障害者の権利条約と日本の課題」と題し、東京大学川島聡氏を講師に迎え、講演を開催しました。

障がいのある人々、支援する人々、地域の人々とともに、人間の多様性、ありのままを受け入れあう共生社会(インクルーシブ社会)をめざし、条約十九条にうたわれる「地域で生活する権利」の実現に不可欠な「地域で支え合う体制づくり」の構築に向けた講演には約三百名が参加されました。

講演後の質疑応答では、たまきな荘施設長金和史岐子様と、ヒューマンネットワーク熊本の相談員植田洋平様を交え、会場と積極的に意見が交わされました。

国連 障害者の権利に関する条約

権利条約とベトナム



館長

三浦 貴子

二〇〇六年八月ニューヨークの国連本部で、障害者権利条約の特別委員会が基本合意に到った時、私はまず日本政府の席にいる東さん方を見てから、次に、ベトナム代表の方々が喜び合う様子を、様々な思いと共にながめました。

青年会議所活動をきっかけに一九九九年から、ベトナムの障害のある人々へ車イスを百四十二台届け、就労する子ども達や、エイズの子も達との交流事業を続けています。

毎年通っているホーチミン市貧困地区の生活の様子は、心に刻まれていて、条約に謳われる「他の者との平等を基礎として」という言葉が深く響いてきます。

また、条約二十八条の適切(十分)な生活水準及び社会保障の部分で「安全な水を飲む権利」が議論されるのを、日本人はなぜだろうと見る空気がありました。ベトナム中部で多くの枯葉剤がまかれた地域(タイニン省)には、ダイオキシンが土壌に残り、その地下水を飲んで暮らさざるをえない中で、障害のある子ども達は今も生まれ続けています。条文には「障害のある人が、清浄な水に平等にアクセスすることを確保する為の措置」と記されました。

生活のニーズは、愕然とする程に違いのある世界

の国々において、障害のある人々が差異と多様性の尊重の下に、権利の主体となって生きること、その実現に向け、社会が合理的配慮を行なうこと等に賛同し、百二十九ヶ国批准をしている障害者権利条約の時代が、日本でも始まりつつあることを喜びます。

福祉サービス第三者評価制度

この制度は、福祉サービスを提供している事業者の『サービスの質』を、第三者の評価機関が専門的かつ客観的な立場から評価を行い、その結果を公表する制度です。

財団法人総合健康推進財団九州支部へ評価をお願いし、十二月十八日職員への説明、一月二十九日利用者への説明、二月十七日家族への説明をしていただきました。三月二十二日・二十九日には三名の調査員による訪問調査が行われました。

四月下旬には結果が熊本県のホームページで公開されることになっていきます。

アンケート等にご協力いただきました利用者や家族のみなさまをはじめ、関係者の皆さま大変お世話になりました。

今後は、今回の評価結果に基



づき課題を明確にし、サービスの向上を図りたいと思います。

マグロの解体ショー

三月二十七日(水)愛隣館食堂にて、マグロの解体ショーがありました。

福岡県うきは市の鯛勇調理師会・山下博文名誉会長、江良正幸会長をはじめ、山鹿ニューグランドホテル・大塚泰久総料理長、ほか会員約二十名の調理師の方々がおいえになり、「本場のマグロを食べてもらいたい」と、ボランティアでマグロの解体ショーを披露してくださいました。



解体が始まると、初めて見るマグロの大きさや包丁さばきに、皆さんは食い入るように見入っておられ、時折、歓声もあがっていました。さらに、利用者・職員全員分の百五十膳もの厚食まで作ってください、新鮮なお刺身と手の込んだ美しい御膳にうっとり。おいしく頂戴しました。

また、入居者の前田秀之さんと、今回ボランティアとして参加されていた大塚様は、偶然にも小学校の同級生。四十五年ぶりの再会を果たされました。最後に、「この素晴らしいご縁をお世話して下さいました、山鹿ニューグランドホテル・吉川幸子社長に心からお礼申し上げます。」

バレンタイン家族報告会

二月十七日(日)テイルームにて、平成二十四年度の家族報告会が行われました。

まず初めに、(財)総合健康推進財団九州支部より、福祉サービス第三者評価受審についての説明が行われました。(詳しい内容は、福祉サービス第三者評価制度に記載されています)

その後、各部からの報告が行われました。

昼食会では、年に一度の入居者とその家族と職員で一緒にテーブルを囲み、親睦を深めておられました。

午後からは個別面談が行われ、計画相談支援の契約をはじめ、おひとりおひとりのご希望や相談を聴きました。食堂では、お茶会が催されカラオケや家族団らんを楽しんでおられました。



ヒューマンライツ委員会 (虐待防止委員会)

本委員会では、在宅利用者を対象に福祉サービス満足度のアンケート調査を実施しました。対象者は愛隣倶楽部十八名、デイケア四十三名の方々です。内容は、サービス利用時におけるスタッフの対応や、サービスの満足度に関するものです。聞き取りは、利用者の心情に配慮し当事者が行いました。

アンケート調査の結果をもとに、今後のサービス提供改善に努めていきたいと考えています。

アンケートにご協力頂き厚く御礼申し上げます。

外部講師を迎えて⑤



ヨーガ教室講師

山崎 美香

「せんせ、またきて」

昨年五月にインドから帰国し、三浦館長さんより依頼をいただいて入居者のみなさんとのヨガクラスが六月からスタートしました。正直、不安でした。しかし、その不安を払拭させてくれたのは、みなさんのやさしい笑顔と最後に言ってくださるこの言葉でした。

ヨーガは自分の中で起きていることを観察し、また呼吸を観察し、動く心と妄想の世界からの解放に

よって苦を取り除くお手伝いをしてくれます。

「せんせ、またきて」

これからもそう言ってもらえるように、そしてここでレッスンができることに感謝してこれからも頑張っていきたいと思えます。

愛隣館スキー体験ツアー

三月十四日(木)アクティビティにて、大分県九重森林公園スキー場へ行きました。

参加者は、入居者の田中正人さん、鶴崎さおりさん、西島俊昭さんと、スタッフ五名の総勢八名です。

当日は、前日の雨により雪が残っている心配されましたが、ゲレンデには、しっかりと雪が残っていました。

スキー場には安心してソリが楽しめる超緩斜面があります。

参加者は、寒さを忘れてソリに乗り、日頃、体験できないゲレンデでのソリスキーを楽しみました。



空飛ぶ車いす事業

愛隣館では、一九九九年から日本で譲り受けた車いすを整備して、ベトナムの障害のある人々に届ける事業を展開しています。

どのような状態かを掴み、その人に合うよう車いすを改造します。日本で得られる情報は、ベトナムから送られてくる人達の写真と、プロフィールのみです。

世界に一台だけの特別な車いすをベトナムの人々の許へ届けたい。そんな熱い思いが繋げた「空飛ぶ車いす事業」も今年で十五年目を迎えます。

「空飛ぶ車いす事業」は、車いすを贈って下さった方、ベトナムまで届けて下さった方、多くの人達の力によって支えられています。

ベトナムの空で羽ばたく車いす

ベトナム育英会代表 秀嶋 正孝

二十年前、ホーチミン市でアンさん（昨年一月に愛隣館を訪問）に出会い、スラムの中には、様々な障がいがあり、家の外に出ることのできない人々がたくさんいることを知りました。

二〇〇〇年に三浦館長から、使わなくなった車いすをスラムの人々にプレゼントする提案を頂き、空飛ぶ車いす事業が始まりました。現在までに百四十台を超える車いすをハノイやホーチミンの人々に渡すことができました。車いすを提供して頂いた方々、整備修理して頂いた中村さんはじめ愛隣館のスタッフの皆さんの思いを乗せた車いすは「物」としてではなく、自由に空を飛ぶことさえできる「心」となって今もベトナムのどこかで働き続けています。



ホーチミンの子供たちへバスツアーの贈り物

サビ管 車いす改造責任者 中村 武光

「第一回空飛ぶ車いすツアー」「第十回ホーチミンの子供たちへバスツアーの贈り物」二〇〇〇年、私の最初のベトナムデビューです。参加者は、不登校の高校生と共に、十八名と十三台の車椅子でした。機内から見えた壮大な赤茶色の大地を懐かしく感じた事を記憶しています。海外へ日本の車椅子、しかも中古の車椅子をリサイクルしパーツを組み合わせた物で良いのか、喜んでもらえるものなのか不安でした。あれから贈り続けている車椅子は百四十二台になりました。

喜んで受け取られる「すがた」や「表情」が、私の意識の原点であり、新品同様に仕上げて差し上げたいという心で、今も制作を続けています。無垢で純粋な気持ちを持つて応援する事についても心地良く思っています。



ベトナムでの出会い

利用者 松尾 隆一

ホーチミン市の第八区にて、一件目のお宅に車いすを届けた時のこと。お話をしている時に、体が痛いと訴えていたことを聞いた松尾さんが、「同じ体だから頑張ってください」と、自分が身につけている手作りのプレスレットをプレゼント。

周りの人々にも温かい気持ちの贈り物となったようです。

利用者 永田 勝利

ベトナムの障がい者の方たちにとても親近感を覚えました。「また来られたらいいが、何時来られるかわからない」そう思って、自分の分身として、身につけていた旅行用に購入したばかりの腕時計を手渡しました。

初めて空飛ぶ車いすツアーに参加して

相談支援員 大丸 祐子

ツアーに参加したのは二〇〇五年、衝撃的な初海外でした。バイクの大群で、道を横断するのも、パクチャーや氷入りの飲料を口にするのも、強烈な香りの市場で買い物する事も、何もかもスリル満点でした。東洋のパリと称される美しい建物と明るいい人々が住む大都会ですが、子供達が昼夜花を売って働き、大人達は家の前でゲームをしている姿を見ました。車いすを届けたら、「ずっと外に遊びにいきたかったの」と涙を見せた少女、かわいい大学生のボランティアとの出会いは今でも強く印象に残っています。

言葉の壁を越えたやりとりは、重い障がいをもった人と気持ちを通じ合った時の、「あの感動」に似ています。



ベトナム海外研修に参加して

生活支援員 守田 直人

日本福祉施設士会、九州・沖縄ブロックの海外研修でベトナムに行かせていただきました。ベトナムの老人ホームや、障がい児の施設を見学したり、現地の方々と交流する等、観光旅行ではできない貴重な経験になりました。近代化により貧富格差の増大や、様々な厳しい状況がある中でも、出会った人達は温かい笑顔で迎えて下さり、またたくましく活き活きと生活されていた事が印象的でした。本当の豊かさとは何か、と、もう一度考えさせられるような刺激を受ける旅でした。



ベトナム 空飛ぶ車いす特集

★ 新しい仲間 ★



入居者
西村 啓子

初めまして西村啓子と申します。愛隣館に来て四ヶ月が過ぎ、良きスタッフ等に恵まれ、笑顔が少なかった私が良く笑う様になりました。

趣味は、音楽鑑賞で、特技は一応、ピアノ、エレクトーン、声楽かな？！（熊本音楽短期大学ピアノ科七期卒業）弾く方は、フランクが三十年くらいあるので復帰したいと思うのですが、四年前に脳出血を発症して左側半身マヒで、リハビリでこれまで良く成りました。いつかは、復帰したいと願っています。

歌は、何でもいけます?!カラオケ大好きです。良くストレス発散に使っていました。

これからも、楽しく暮らせたら良いかなと思っています。

クローズアップ愛隣館⑤



ハウスヘルパー
中村 由美子

私が愛隣館の洗濯場で勤務させて頂くようにな

って四年目になります。

最初は不安もありましたが、職員の方々のやさしい指導、入居者の方々のコミュニケーションでみなさんの笑顔に触れ癒されて頑張ってきました。毎日ものすごい量の洗濯物で、とても大変な仕事です。まだまだ失敗して皆さんに、ご迷惑をおかけする事もありますが、少しでも入居者の方々が快適に楽しく過ごして頂けるように頑張っていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

★ 家族の声⑥ ★

「父とお寿司」

小笠原 祐治

月日のたつのは早いもので、父が愛隣館にお世話

になって二十六年程になります。月に一度面会に行きますが、父は私達の顔を見るなり「寿司くれ寿司くれ」と言います。父はお寿司に目がないのでお寿司を美



味しそうに食べている父を見てると、こちらもホッと安心します。

その父が去年の夏に大腸の手術をして以来、大好物のお寿司が食べられない状況になりました。入所以来、大きな病気をした事がなかったので、大変心配になりました。しかし最近はいび回復し以前のように戻りつつあります。お寿司を持って父に会いに行く日もそう遠くないようです。今後共、お力添えを宜しくお願い致します。

地域情報交換会

二月二十日(水)愛隣倶楽部にて、山鹿市で、活躍をされている方達が、情報交換会を開かれた際、キャリアビジョンメンバーが招待を受け、参加させて頂きました。

地元有識者の方々との交換会で、緊張していましたが、皆さん優しい方々で、直ぐに溶け込むことが出来ました。今回は、多様な手作り料理で美味しく頂くことが出来ました。

今回、貴重な交換会に



参加させて頂き、多くの情報を得ることが出来ました。
キャリアビジョンメンバー同感謝申し上げます。

ネイルアート

昨年の十月より利用者のリクエストで、月に一回、中司美先生のネイルアートが愛隣館食堂で行われています。

参加者は、ネイルカタログを見ながら「今度は、どのデザインにしようか?」と自分のイメージや気分に合わせて選ばれます。

まず、前回のネイルパーツを外し爪のお手入れを、次に、ベースコートをしてUVライトに二時間入れて固め、好みのネイルシールやスワロフスキーを貼り、最後にクリアシールを塗りま

す。
参加者は、中司先生と会話を楽しみなが、お洒落に仕上がる爪を眺め笑みを



浮かべておられました。
尚、爪のお手入れを含めたネイルアートは、一回二千円と、店頭に向くよりリーズナブルなお値段となっています。

物づくりの風景

毎年、年末近くになると愛隣倶楽部では、スツッフの隈部賢治さんが門松を作られます。

近隣の山から、枝を落とした竹を持ち帰り、六本に切り分け調整しながら組み立てられます。土台も、竹を割り器用に組み立てていきます。

ポイント
は、前から見た切り口が大きく見えるように、又、横から見たら刃で竹を斜めに切り落とし、たよように見えるのが大事だそうです。



松、竹、梅をバランスよく飾り付けられ、既製品にも勝る出来栄です。
年末年始に、ご利用者やご家族の方々の目を

楽しませています。

J A 熊本主催植木まつり

二月十四日(木)アクティビティにて、合志市の農業公園カントリーパークで開催された「植木まつり」に、入居者四名の方々が行かれました。

参加された入居者の方々にお話しを聞くことができました。

杉山さんは、「食べる専門ですが、楽しい時間でした」中本さんは、「今回が初めてで、植木祭りの雰囲気味わいたかった。花の苗が綺麗だったので、行ってみたい」

鶴崎さんは、「会場の通路が前日の雨で悪く、残念だった。色とりどりの花があり、特にピンクの花が綺麗でした」寺田さんは、「花や植木は大好きなので、植木祭りは、とても楽しみにしていました。今回は、ボケの苗を購入し、愛隣館の中庭に植えてもらいました。植木祭りに止まらず、花の祭典には出来るだけ参加して行きたいです」と楽しそうに話されました。



ほっとフォト①

今回は、クリスマス寒波が続く夜、熊本日新聞山鹿支局の岩下勉様に撮影していただいた、地域をイルミネーションで温かく包む愛隣館の写真を紹介します。

愛隣館では、開設時よりクリスマスイベントの一つとして、イルミネーションライトアップが行われています。

十二月になると、愛隣館やデイケア、愛隣倶楽部の屋根や植栽にイルミネーションを点灯させ、ご利用者やご家族はもちろん、地域の方々や道行く人にも楽しんでいただいています。



イルミネーションは、心を豊かに軽快にしてくれる光のエネルギーです。

女性防火防災クラブ

救急救命法講習会

山鹿植木広域消防本部では、大切な命を救えるよ

うに「命の架け橋」となる市民を養成するため、救命講習会が実施されています。

愛隣館でも、山鹿消防署に講師（ホランティア）をお願いし、十一月七日・十四日・二十日の三回に分けて講習会を開催。法人愛隣館の女性職員百三十三名と男性職員十五名が参加しました。

この講習会では、救急救命士や救急隊員指導のもと、心肺蘇生法や AED（自動体外式除細動器）を活用して、応急手当の知識と技術を身につけます。パネルでの AED の取り扱い説明の後、実際にダミー人形と AED を使って心肺蘇生法を行いました。

気合の入った講習となり、講師の熱心な説明に、皆さんが真剣に取り組んでいました。

講習会後は、①心肺蘇生人体モデル二体、② AED トレーナーセット、③気道確保指導モデルセット、④人工呼吸用携帯マスク・三角布、⑤テキストを交付していただきました。

理事長をはじめとする参加者全員には、修了証が発行されました。



理事会の開催

三月二十五日（月）に山鹿市内のホテルで社会福祉法人愛隣館の理事会・評議員会が開催されました。理事・幹事十四名、評議員二十五名参加のもと、二十四年度補正予算、二十五年度事業計画ならびに予算、ほか四議案について承認をいただきました。



編集後記

今回のあいめーる、少し構成を変更し、目玉企画として、『空飛び車いす』ベトナム特集を組んで見ました。如何だったでしょうか？その編集をする中で、色々な映像や写真を拝見したり、皆さんからも、お話を伺う事が出来ました。私たち日本の障がい者は、ある面では恵まれているのかなと、改めて痛感いたしました。

さて、三年目を迎えた我々広報チーム・キャリアピジョン、思いも新たに益々の精進を積み重ねて行く所存でございます。皆さま、今後共、ご指導のほど、よろしくお願い致します。